

ホタルコイコイ

ニ調 2 4	1	3.	3	5.	5	3.	5	6.	6	1.	6	5.	0	
	ホ	タ	ル	コ	イ	コ	イ	ト	ン	デ	コ	イ		
	ほ	た	る	こ	い	こ	い	と	ん	で	こ	い		
	3.	3	3.	3	5.	5	3.	2	1.	2	3.	2	1.	0
	ウ	チ	ハ	ヲ	ア	ゲ	タ	ラ	ト	ン	デ	コ	イ	
	い	ー	へ	は	き	れ	い	な	ほ	た	る	か	ご	
	5.	5	5.	5	3.	3	5.	5	6.	6	1.	6	5.	0
	サ	ー	サ	ヲ	フ	ツ	タ	ラ	ト	ン	デ	コ	イ	
	ご	ち	そ	う	し	ま	せ	う	く	さ	の	つ	ゆ	
	1	5.	5	6.	6	5.	5	3.	3	2.	2	1.	0	
	キ	タ	ラ	ダ	イ	デ	ニ	シ	テ	ア	ゲ	ヨ	ウ	
	び	か	び	か	び	か	ご	ひ	を	ご	も	せ		

表情遊戯

土川五郎

ホタルコイコイ

作歌 景浦直考

作曲 永井幸次氏

(大阪開成館唱歌幼稚園)

ゴ	二、	サ	一、
ピ	ホ	サ	ホ
カ	タル	サラ	タル
ビ	コイ	ヲ	コイ
カ	コイ	フ	コイ
ビ	コイト	ツ	コイト
カ	コイト	タ	コイト
ト	ン	ラ	ン
ヒ	ン	ト	ン
ヲ	デ	ン	デ
ト	コイ	デ	コイ
モ		コイ	
セ		イ	

ホタル 右足一步斜右に左足の踵を上ぐ、兩手を斜右に充分に伸ばす(掌を下に向け)。

コイコイ 兩手にて招く如くすること二回此時遙か向ふを見る。

トンデ 左足一步斜左に右足の踵を上ぐ。兩手を斜左に充分に伸ばす。

コイ 兩手にて招くこと前に同じく二回。

ウチワヲ 左足を右足に引きつけ、右手を斜右に

上ぐ(掌を空に向く)左手は左側稍々後方に伸ばし上體を少しく右方に傾く。

アゲタラ 左手にて同じ動作をなす。

トンデ 兩手を體前(目より少しく高く)中央にて指先を合せ更に之れを左右に開きて又中央に持來す。

コイ 兩手にて招く如くすること一回。

ササヲフツタラ 兩手を頭上にあげ掌を相對し之れを左右にふること四回。

トンデコイ 兩手を少しく左右に開き羽ばたきしつゝ右より一回回轉す。

キタラ 兩手を左右より頭上に伸ばし兩足の踵をあげ兩掌を勢よく合せ螢を捕ふる様をなす。

ダイジニ 兩膝を少しく屈し兩手(螢を兩掌の間に入れてるまゝ)を胸前に持ち來して膝を伸ばす。

シテアゲヨウ 左より右より交互に螢をのぞき込む如くす。

二、ホタルコイコイ 第一に同じ。

トンデコイ 第一に同じ。

イヘハ 兩手を開掌のまゝ體前顔の高さに持來り更に左右肩の高さに開く。

キレイナ 再び體前に持來り兩掌を肩の幅に向き合はす。

ホタルカゴ 兩手を其儘下にさぐ(肱の直角になるまで)。

ゴチソウ 兩膝を少しく屈し兩手を揃へ掌を上にし左下に下げ。

シマセウ 體前に持來す。

クサノツユ 右下にさげて露を與ふる如くす。

ピカ 前方斜兩側に少しく高く手を開く。

ピカ 肱を屈す。

ピカト 又兩腕を伸ばし掌を開く。

ヒラ 山形に體前にて左右に開く。

トモ もとに戻し更に側方よりすくひあぐ。

セ 拍手一回。

桃太郎

桃から生れた桃太郎

氣はやさしくて力持ち

鬼が島をば撃たんとて

勇んで家を出掛けたり

日本一の黍團子

なさけにつき来る犬と猿

雉子も貰ふてお伴する

いそげもの共おくるなよ

はげしいいくさに大勝利

鬼が島をば攻め伏せて

こつた寶は何々ぞ

金銀さんごあや錦

車につんだ寶もの

犬が曳き出すゑんやらや

猿があと押すゑんやらや

雉子が綱ひくゑんやらや

準備 此の歌の感じを抱かしむるには一同を圓形に

内面に向き蹲踞せしめ兩手を左右側より頭上に指

先を合せ自分が桃の中に這入つて居る。即ち「さ

あ皆さんは桃太郎さんですよ、桃の中に這入つて

ゐらつしやい」かく取扱ふ。

桃から 此の間沈黙。

生れた 兩手を左右に開きて兩側に下ぐる時直立

す。

桃太郎 左足僅かに左へ右足を僅かに右に開く

氣はやさしくて 右掌にて胸を撫で(大きく)下ろし

次に左掌にて同様になす。

力持ち 左手の拳を握り前に出し右手の拳にて左腕

を打ち、次に右手を出し左手にて打つ。

鬼が島をば 右手食指を出し右側斜上を指す。

うたんこて 右手を一振り振ると同時に右向をなす

勇んで家を出掛けたり 行進す。

日本一の黍團子 兩手の拇指と食指にて丸を作り

他指を開き兩側後方より上へ大きく頭上へ上ぐ。

なさけにつきくる犬と猿 行進す。

雉子も 立ち留まり兩手を胸前に取る(掌を上)、

貰うて 禮をなす。

お伴する 兩手を下ろし行進す。

いそげもの共おくるなよ 前の歌の止みたる時右足
前左足後の姿勢にて其まゝ上體を左へ廻し、後ろ
を向き右手にて臣を招く。

はげしいいくさに 兩手共に握り左下右上に胸前に
持ち來り(恰も刀の柄を握れる如く)左足より踏み
入れ四歩(圓心に向つて)前進す。此時刀を握りた
る兩手を高くすることなく斜右上より斜左下へ次
に斜左上より斜右下へ(擊劍の打ち込みの型の如
く)行進すると共に動かす。

大勝利 兩手を真直に上にあげ。

鬼が鳥をは 右足を一步引き兩手を兩側後方より大
きく上にあげ。

せめ伏せて 上體を前へ屈すると同時に兩手を前へ
(掌を下に)。

取つた寶は何々ぞ 右手を前に伸ばして握りて引く

次に左手にて同じ動作をなす、後退しつゝ左右交

互に此の動作をなすこと四回。

金銀さんごあやしき 右食指にて體前左より指す

こと四回。

車につんだ寶物 右足稍々右へ開き兩手をそろへ

(掌を上)に右下方より左にある車へのせる如く、

(此時右下方に手のある時は兩膝を稍々屈し左へ
送る時のばす)すること二回。

犬が曳き出すゑんやらや 車を曳く如く兩手を軽く
握りて胸側下方に置き左足前に上體を稍々左前方
に次に右足前に上體を稍々右前方に傾け(重きを
曳く如く力をこめて)四歩前進。

猿があとおすゑんやらや 兩手掌を前方に向け左足
を出す時(上體と共に稍々左方に)突き出し右足を
出す時出したる手を引きて又突き出すかくする事
四回即ち四歩前進す。

雉子が綱ひくゑんやらや 右肩に綱をかけ右手にて
曳く如くして前進すること八歩。

◎人を求む

○このごろ家庭に住みこみの保母を要する向が二三
ございます。御希望の方は本會あてに履歷書をそ
へて御申出し下さい。

水 鐵 砲

水を澤山くんで来て

水鐵砲で遊びませう

一、二、三、四、シュツ／＼シュツ

鳩

ぼっぼっぼ 鳩ぼっぼ

豆がほしいか そらやるぞ

みんなでなかよくとんで来い

ぼっぼっぼ 鳩ぼっぼ

豆がうまいか たべたなら

一度にそろつて飛んで行け

水 鐵 砲

圓心に向く

水を澤山汲んできて 兩手を揃へ水をすくふ如き手

振にて體を前方に傾け、左方へ水を汲み入れる如くすること四回。

水鐵砲で 兩手を握り左手は甲を下に右手は甲を上

に體前にて水鐵砲を持ちたる如くして、上下に動かして、四歩前進す。

遊びませう 同じく四歩後退す。

一三四 左足一步前にし水鐵砲を持ちたる手つき

にて上體を前方に屈し、左手を下に伸ばし右手にて水を汲上げる如く突いては引き突いては引くこと四回。

しゆつしゆつしゆつ 體を起し左手を伸ばし上方を向き右手にて(左右手共に握る)水を突き出す如くすること三回。

鳩

ぼっぼ 兩手を左右に掌を下にして開き左足を左へ

一步(少しく膝を屈す)直ちに右足を左足につく(膝を伸ばす)

ぼ 前と同じ動作を右方に行ふ。

鳩ぼ 左方に同じくす。

ぼ 右方に同じくす。

豆がほしいかそらやるぞ 左手に豆を受け右手にて

それを取りては投げる如くして右方より一回轉す

みんなで仲善く 全體手を取りて四歩前進す。

こんでこい 右手にて鳩を招きつゝ四歩後退す(此時手は體前や下方にて招く)。

ぼっぼっぼ、前に同じ。

鳩ぼっぼ 前に同じ。

豆がうまいかたべたなら 前に同じく鳩に豆を與ふる如くす。

一度に揃つて飛んでゆけ 全體右向きをなし左右手を伸ばし上下に動かして、前進し終に内方に向く